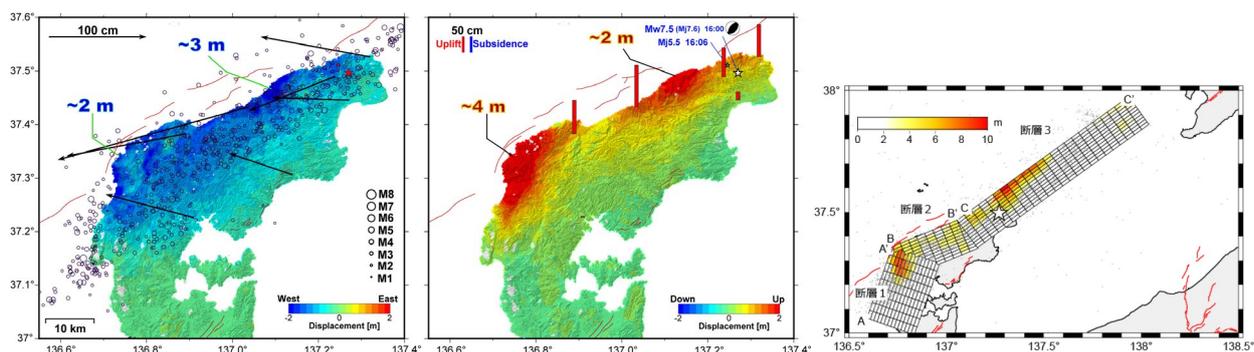


内陸地震に関する測地・地殻変動研究の進展と課題

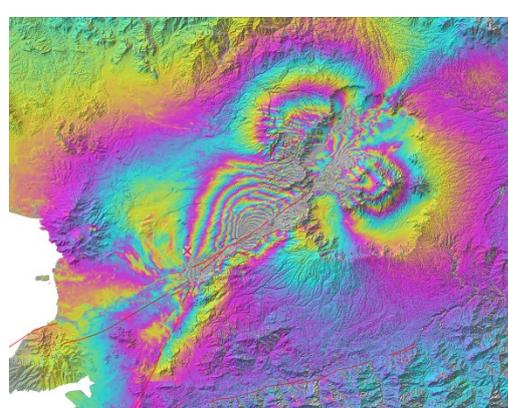
矢来博司（国土地理院）

ポイント

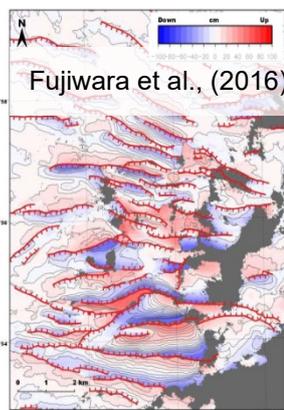
- ・ 阪神・淡路大震災以降、全国の GNSS 連続観測点（GEONET）の整備や、合成開口レーダ（SAR）衛星の運用開始など、測地観測技術の進展により、地震に伴う地殻変動を詳細に捉えることができるようになった。
- ・ これらの観測や研究の結果、震源断層やそのすべりの複雑性が明らかになってきた。
- ・ 震源断層の活動に伴って、断層の周辺で受動的な断層変位が生じるケースも見出されている。
- ・ 地殻変動の把握が迅速化され、地震活動の現状把握に活用されている。
- ・ 測地観測技術の内陸地震の中・長期評価への活用は、GNSS データを用いた研究が現在進められているところ。



衛星 SAR と GNSS 連続観測により明らかになった令和 6 年能登半島地震に伴う地殻変動と震源断層モデル



熊本地震に伴う地殻変動（衛星 SAR）



阿蘇外輪山北西の複雑な変位とその解釈

